

第565回

I B C 番組審議会 議事録

－議題－

テレビ番組「明日への証 “釜石の奇跡” の真実」

平成23年11月16日
(株) I B C 岩手放送

第565回IBC番組審議会

1. 開催日時 平成23年11月16日(水)午前11時
2. 開催場所 デジタルセンター3F Dホール
3. 委員の出席
- | | |
|---------|-------------|
| 委員総数 | 10名 |
| 出席委員 | 9名 |
| 出席委員の氏名 | |
| 委員長 | 田代 高章 |
| 副委員長 | 熊谷志衣子 |
| 委員 | 大村友貴美 小笠原 裕 |
| | 加藤 正幸 工藤 和彦 |
| | 小松 務 澤口たまみ |
| | 矢佐 俊幸 |
| 欠席委員の氏名 | 杉本 博 |
- 会社側出席
- | | |
|-------|-------------|
| 鎌田 英樹 | 代表取締役社長 |
| 熊谷 鉄郎 | 取締役放送本部長 |
| 成島 信夫 | 編成局長 |
| 武田 敏哉 | 報道局長 |
| 鹿野 真源 | 報道部記者(東部支社) |
- 事務局
- | | |
|-------|-----------|
| 相原 優一 | 番組審議会事務局長 |
| 小笠原 勉 | 事務局 |
4. 議題 テレビ番組『明日への証 “釜石の奇跡” の真実』

5. 議事の概要

<委員の主な発言>

- 釜石東中を取り上げ、奇跡はなぜ起きたのかを丹念に取材していた。非常に示唆に富んだ番組ではなかったか。中で、生徒たちが「奇跡とは思わない」と言い切っていたのが印象に残った。
- 今後、東日本だけではなく東海、東南海、南海という3連動地震なども懸念されているわけで、今回の釜石の奇跡が有名な「稲村の火」のお話のように語り継がれていってほしい。そのために、この番組を津波防災教育用の教材として全国の都道府県に配ることを考えると、釜石の教訓が全国に伝わって津波の被害を防ぐ一助になるのではないかと感じた次第です。
- 日々こつこつと、当たり前のことを積み重ねてきたことの中に、やはり奇跡は宿るものなんだと思えたことで、被災した、しないに関わらず多くの人に勇気を与える番組だった。冒頭にあった防災フェアの「音が無くなっていた。何も音がしなくなっていた」という中学生のスピーチは、経験していない人間には絶対に出てこない言葉、事実の重みを感じた。
- 番組に惹きつけられました。先生や生徒のインタビュー、近所の人が撮った写真でしか当時の様子が分からないが、なぜか非常に真実味というか生々しさを感じた。特に中学生が小学生の手を引いて非難する写真などを見て、その日の緊張感が伝わってくるような気がした。
- 津波に襲われた当事者でないと出てこない一言が多くあり、それが見る者に真実を伝えるという印象を与えている。今後のことを考えると、東海、南海地域の方々にも記録ドキュメンタリー番組というだけではなく、教育番組として各メディアに配り、今後に活かしていただければと思う。
- 津波から逃げるため、中学生が小学生の子どもを引っ張って走っている様子を、中学生が「泣きたかったけどなくと小学生も泣くので我慢をして引っ張った」と話していたことが印象的だった。先生方がいい教育をしていることが伝わってきた。一朝一夕の奇跡ではない、やるべきことをやっている東中学校の教育の在り方は地域に対してもインパクトを与えたいいい番組だった。
- 迅速な非難行動、率先垂範、想定にとらわれなくて最善を尽くす。迫り来る本当の脅威のときは、各自が生き延びると。次の災害のときもこういうことをやれば、逃げ延びることができるかもしれない。後世に伝えることが大切だと思う。本当に感動するいい番組でした。